

ザ・ゲーム

第2版 完全日本語版

封印されている悪魔のあまたの僚属たちがうごめきだした。このままでは悪魔が復活する！ それを阻止するため、あなたがた悪魔バスターの面々は、みな協力してそうした僚属たちを倒していかねばならない。あなたがたの協力が功を奏し、十分な数の僚属たちが倒されたなら、悪魔の復活は阻止され、平和が保たれるだろう。ベストを尽くし、1匹でも多くの僚属たちを倒すのだ！

この僚属たちは、一見無敵ですが、あなたがたが用意した特定の結界の中ではすこぶる脆弱になり、簡単に倒すことができます。しかし、その結界の中に彼らをおびき寄せるには、一定の作法に従うことが必要です。彼らには個々に数字が割りふられており、その数字順におびき寄せる必要があるのです。はたして、あなたがたはうまく彼らを順番におびき寄せることができるでしょうか。

■ 1. 内容物

本ゲームには、102枚のカードが含まれています。その中には結界の場所を示す4枚のカードと、僚属たちを示す98枚のカードがあります。

結界カード(4枚)



昇順カード
(1 → 99)
2枚



降順カード
(100 → 2)
2枚

僚属カード(98枚)



「2」から「99」まで
(各1枚)

注意：この「ザ・ゲーム第2版」には、拡張ゲーム「オン・ファイア」用の青いカード6枚が含まれています。ゲームに慣れるまでは、この6枚は使用しないでください。これらを使用して、拡張ルールで遊ぶときは、「■ 8. 拡張ゲーム：オン・ファイア」に記載されているルールにしたがってください。

■ 2. ゲームの準備

結界カード4枚を左図のようにテーブル上に縦一列に並べます。それらのすぐ右側が結界（プレイヤーがカードをプレイする場所）となります。つまり、結界は4か所あることになります。次に、僚属カードをひとまとめにしてよくシャッフルし、各プレイヤーに手札としてランダムに伏せて配ります。配る枚数は、プレイヤー人数によって変わります。1人で遊ぶ時は8枚、2人の場合は7枚ずつ、3～5人の場合は6枚ずつとなります。残った僚属カードは山札として左図のように結界カードの列の脇に伏せて積んでおきます。これが山札となります。各プレイヤーは配られたカードを手札として手に持ちます。手札の内容はゲームが終わるまで誰にも見せてはいけません。また、手札の内容（具体的な数字）を教えることもいけません。

その後、プレイヤーは話し合っ、誰が最初のプレイヤーになるのかを決めます。決まったら、ゲームを開始します。

■ 3. 手番

このゲームでは、最初のプレイヤーが手番を行ったあと、手番が時計回りの順でプレイヤー間をめぐる。ゲームが終わるまでそれを繰り返してください。

手番プレイヤーは、手札からカードを1枚ずつ個別にプレイします。ただし、必ず1回の手番中にカードを2枚以上プレイしなくてはなりません。そのプレイの詳しいやり方は「■ 5. カードのプレイ」の章を参照してください。

手札をすべてプレイしてしまってもかまいません。望むだけカードをプレイし終わったら、山札の上からカードを引いて補充し、手札を元の枚数に戻します。そして「終了です」といって、手番の終了を宣言してください。すると手番は左隣のプレイヤーに移ります。

もし、手札の補充中に山札が枯渇したなら、それ以降は誰も引きません。山札のない状態でゲームを続けてください。ただし山札がなくなった後、ルールが一部変更されます。「■ 5. カードのプレイ」の章を参照してください。

■ 4. ゲームの終了と勝利判定

手番プレイヤーが、手番中に2枚以上のカードをプレイできなくなったとき、ゲームは終了します。

ゲームが終了したら、結界に置かれていない（つまり、全プレイヤーの手札と山札に残っている）カードの枚数を数えます。それが倒されなかった僚属たちの数になります。その数が9枚以下なら、プレイヤー全員の勝利となります。もし、それが0枚、つまり98枚すべてのカードを置ききった場合は完全勝利となります。いっぽう10枚以上なら、悪魔が復活してしまい、全員敗北となります。

なお、ゲーム中に手札がなくなってしまったプレイヤーがいた場合、それだけではゲームは終わりません。その場合は、そのプレイヤーぬきでゲームを続けてください。こうしてプレイから脱落したプレイヤーも、ゲーム終了後には、勝利や敗北を他のプレイヤーたちと分かち合います。

■ 5. カードのプレイ

手番プレイヤーがカードをプレイする（僚属たちを倒す）には、次のルールに従わなければなりません。

- 1枚ずつプレイする（1枚プレイし終わってから、次のカードをプレイすること）。
- 1手番中に2枚以上プレイすること。ただし、山札が枯渇した後は、1枚以上プレイすればかまわない。
- プレイした各カードはただちに4か所の結界のいずれかに配置する（すでにそこに置かれているカードがあれば上に重ねる）。
- 1手番中に配置するカードが2枚以上、同じ結界に配置されてもかまわない。カードをプレイする順番は自由。
- 配置したカードはすでにその結界に配置されているカードの上に重ねる（山になる）。
- 昇順カード（1 → 99）の結界にカードを配置するときは、いまそこに配置されているいちばん上のカードの数字より大きい数字のカードを配置しなければならない。
- 降順カード（100 → 2）の結界にカードを配置するときは、いまそこに配置されているいちばん上のカードの数字より小さい数字のカードを配置しなければならない。

例：雅之くんは、手番中に、まず1枚目のカードを1つ目の昇順の結界に配置しました。次に彼は2枚のカードを順に2つ目の昇順の結界に配置しました。最後に彼は4枚目のカードをプレイし、それを2つ目の降順の結界に配置し、手札を補充して手番を終えました。

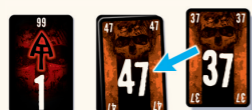


例：左図のように、ある昇順の結界のいちばん上のカードは「4」です。そこで手番プレイヤーはまず「8」をプレイしてこの結界に配置します。今度はこの結界のいちばん上のカードは「8」になりました。そこで、彼は次に「13」をプレイして、その上に配置しました。

■ 6. 特別ルール

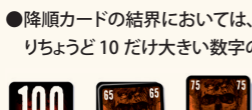
どの結界においても、置かれるカードはどれも、昇順または降順の一定の流れに沿って配置されることとなります。ただし、例外として次の特別ルールが適用されます。これらの特別ルールは、カードを1枚プレイすることによって利用することができます（1手番中に何回でも利用できます）。

●昇順カードの結界においては、いま一番上に配置されているカードの数字よりちょうど10だけ小さい数字のカードを配置してもかまわない。



例：左図は昇順の結界です。いま一番上のカードは「47」です。通常なら、ここには「48」以上のカードを配置しなければなりません。けれども、雅之君は手札に「37」を持っていました。「47」よりちょうど10だけ小さい数字のカードでしたので、それをプレイして、特別ルールにより、「47」の上にのせることができました。これでこの結界には、次は「38」以上のカードを置けるようになりました。

●降順カードの結界においては、いま一番上の配置されているカードの数字よりちょうど10だけ大きい数字のカードを配置してもかまわない。



例：左図は降順の結界です。いま一番上のカードは「65」です。通常なら、ここには「64」以下のカードを配置しなければなりません。けれども、雅之君は手札に「75」を持っていました。「65」よりちょうど10だけ大きい数字のカードでしたので、それをプレイして、特別ルールにより、「65」の上にのせることができました。これでこの結界には、次は「74」以下のカードを置けるようになりました。

●降順カードの結界においては、いま一番上の配置されているカードの数字よりちょうど10だけ大きい数字のカードを配置してもかまわない。

■ 7. コミュニケーション

各プレイヤーは、ゲーム中、他プレイヤーの手札やプレイしようとしているカードの正確な数字について尋ねてはいけません。また自分の手札やプレイしようとしているカードの正確な数字を誰かに教えたり、それが推測できるようなコミュニケーション方法をとってはいけません。

ただし、それさえ守るなら、どんな相談をしてもかまいません。全員の勝利のため、むしろ相談はするべきでしょう。カードの数字が特定されるような方法を使ったり、示唆しなければ数字に関する相談もできます。

たとえば「この結界にはできれば置かないでくれ」「この結界であまり大きく数字が飛ぶのはまずいよ」などはいずれもOKです。いっぽう「オレはこの結界で大きな仕事をするから、ここには置かないでくれ」はアウトです。「大きな仕事」とは、特別ルールを利用して「ちょうど10数字が大きい（または小さい）数字をプレイする」（結界を示しているなら、数字が1つに絞られてしまう）ということを明確に示唆しているからです。

なお、手番プレイヤーは、プレイしようとしているカードの数字を誰か一人にでも見られてしまったなら、もうそのカードのプレイを中止してはいけません。

そのため、各プレイヤーは誰にも相談せずにカードをプレイすることはさけ、カードを1枚プレイするごとに、その前に他のプレイヤーと一定の相談をすることをお勧めします。「55」の上に「56」をのせるのだからいいだろう、などとタカをくくっていると、誰かが手札に持っている「45」をプレイする絶好のチャンスを見すみす逃してしまうかもしれないからです。

■ 8. 拡張ゲーム：オン・ファイア

本商品には、「拡張ゲーム：オン・ファイア」用の青いカードが6枚含まれています。

拡張ルール「ザ・ゲーム・オン・ファイア」で遊ぶときは、それらを使用し、次のルールにしたがって遊んでください。



ゲームの準備中に、「22」「33」「44」「55」「66」「77」の6枚を抜き出して箱にしまい、代わりに「オン・ファイア」用の青い6枚のカードを加えます。そして、下記の点についてのみ、ルールを変更して遊んでください。

ルール変更点

いずれかのプレイヤーがある手番中に青いカードのいずれかをプレイしたなら、次の手番プレイヤーの手番終了時まで、プレイされた青いカードの上に少なくとも1枚の青くないカードをプレイし、その結果として「すべての結界において青いカードが一番上でない状態」を作り出さなければなりません。それが実行できなかったなら、ゲームは直ちに終了し、プレイヤーたちはゲームに敗北します。

例：ある手番に、雅之君は青いカード「44」をプレイしました。雅之君が同じ手番中に「44」の上に青くないカードをプレイしなかった場合、次の手番プレイヤーである伸明君は、手番中に「44」の上に青くないカードをプレイしなければなりません。それができなければ、全員敗北でゲームは終わります。

注意：1人で遊ぶ場合も、青いカードをプレイした次の手番の終了時まで、青いカードの上に青くないカードをプレイして、やはり「すべての結界において青いカードが一番上でない状態」を作り出さなければ、ゲームに敗北します。

■ 9. 上級レベル

敗北したら、勝利できるまで腕を磨きましょう。もし勝利したら、同じ勝利でも「完全勝利」を目指してください。もし、完全勝利をおさめ、同じメンバーで再度ゲームをするときは、その次は、ぜひ次のようにさらに難易度をあげて再挑戦してみてください。

●手番プレイヤーがプレイするカード枚数を2枚から3枚に引き上げる。

もし、それもクリアしてしまったら、自慢しましょう。そしてさらに次の条件でチャレンジしてみてください。

●手札を1枚減らす（1人：7枚／2人：6枚／3～5人：5枚）。

1人でハイスコアを目指すのも面白いでしょう。

発売元：株式会社アークライト

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-1
山碁ビル6F
<http://www.arclight.co.jp/ag/> email: b-game@arclight.co.jp

※ルールに関するお問合せは上記メールアドレスに
お願いします。お電話でのお質問にはお答えい
たしかねますので、ご了承ください。



©2016 Arclight, Inc.

